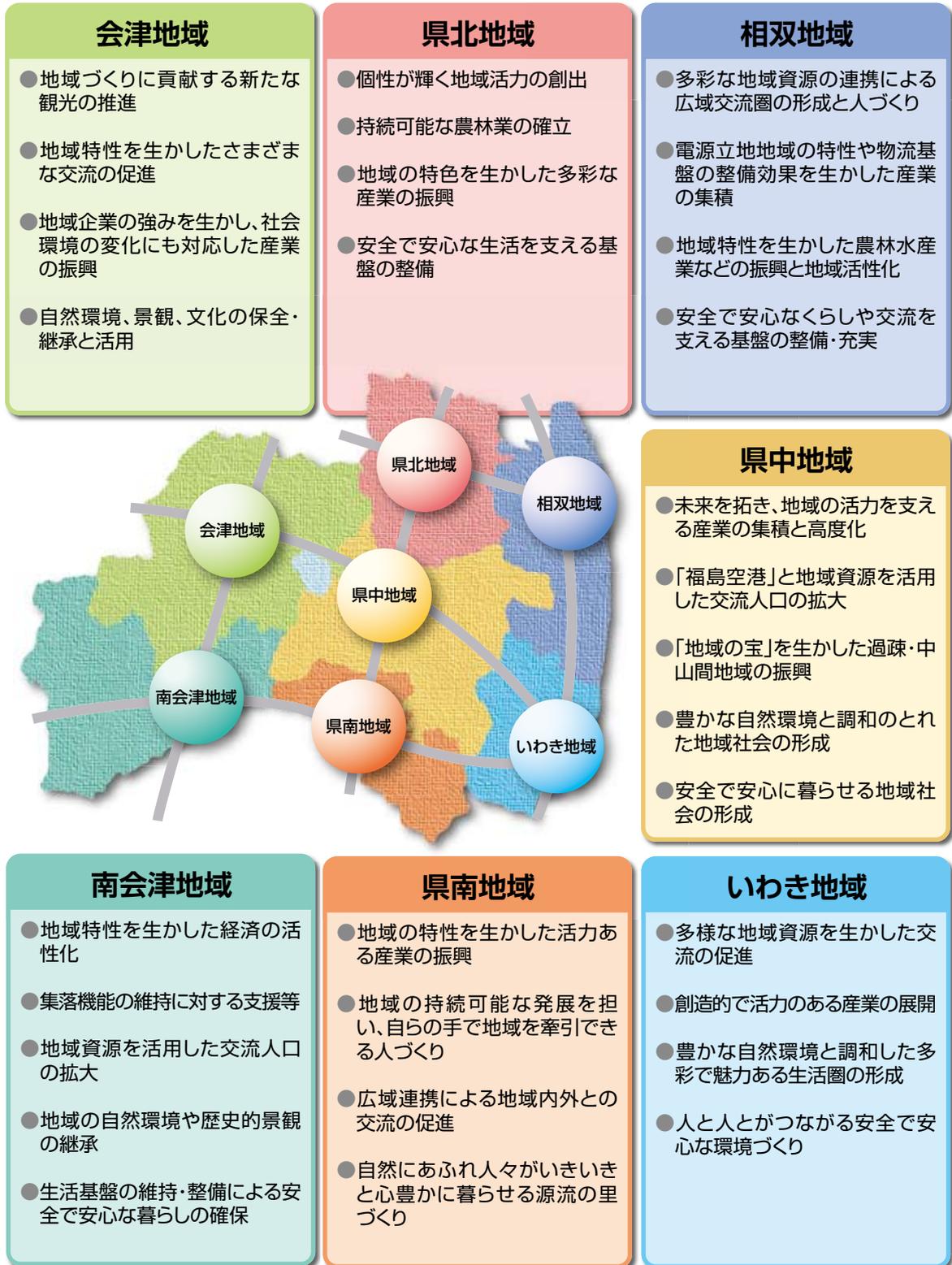


第5章 地域別の重点施策



本章においては、第3章「ふくしまの基本方向」を受け、七つの生活圈、それぞれの観点から各地域で重点的に推進する施策として、「地域別の重点施策」を示します。



第6章 計画の推進のためにへ

第5章 地域別の重点施策

本章においては、前章で記載した全県的に推進する「政策分野別の重点施策」のほかに、七つの生活圏、それぞれの観点から各地域で重点的に推進する施策を「地域別の重点施策」として示します。

● 地域別の重点施策の構成

地域特性 人口、産業構造などの主なデータや自然的・社会的特性、発展可能性などについて記載しています。

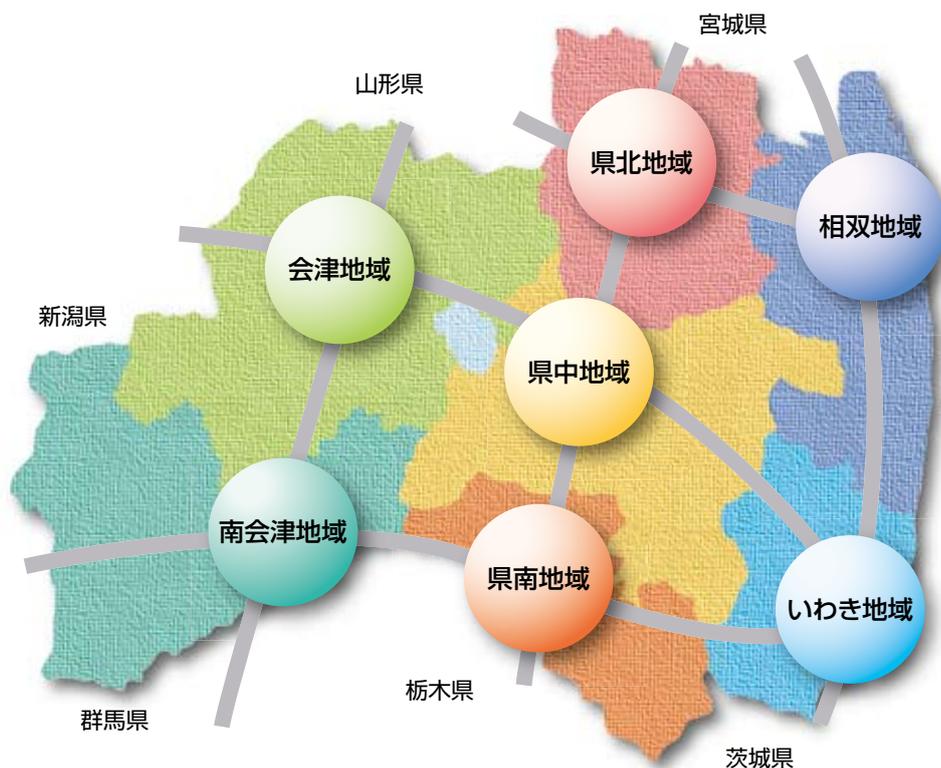
課題 現状や特性を踏まえ、それぞれの地域の課題を抽出しています。

施策の展開方向 それぞれの地域で進める施策の大きな方向を、地域住民や市町村の意見も聴きながら示しています。

重点施策 第4章「政策分野別の重点施策」に掲げる、県がその役割の下に重点的に取り組む施策を踏まえ、それぞれの地域が掲げる施策の展開方向に沿って、今後5年間に進める特徴的、即地的な施策を限定して掲げています。

なお、ここに記載されていない施策についても、「政策分野別の重点施策」に基づき、それぞれの地域の実情に合わせて展開していきます。

また、ここに掲げた重点施策については、すべてを県が自ら行うということではなく、施策によっては、県と地域の住民や市町村などが連携・協力しながら進めるものや、地域の住民や市町村などの主体的な取組みを県が支援・協力するものも含まれています。



●統計データについて

面積

国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」
〔調査時点:平成20年10月1日〕

人口^{※1}・世帯数

福島県統計調査課「福島県の推計人口(福島県現住人口調査月報)」
〔調査時点:平成21年10月1日〕

就業人口^{※2}

総務省統計局「国勢調査報告」
〔調査時点:平成17年10月1日〕

産業別総生産^{※3}

福島県統計分析課「福島県市町村民所得推計」
〔調査時点:平成18年度〕

※1 人口は年齢不詳があるため、年齢別人口の計と一致しません。

※2 就業人口は分類不能を含むため、産業別就業人口の計と一致しません。

※3 総生産は帰属利子などを控除しているため、産業別総生産の計と一致しません。

県北地域

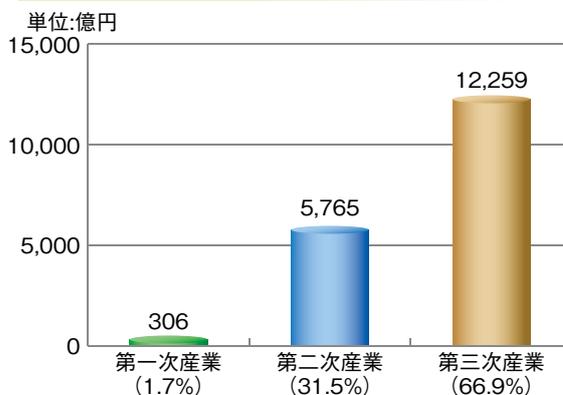
(1) 地域特性

- 面積
1,753.42km²(県全体の12.7%)
- 世帯数
178,158世帯(県全体の24.4%)
- 人口
500,340人(県全体の24.5%)
- 就業人口
251,004人(県全体の24.8%)
- 地域内総生産
約1兆7,618億円(県全体の22.3%)

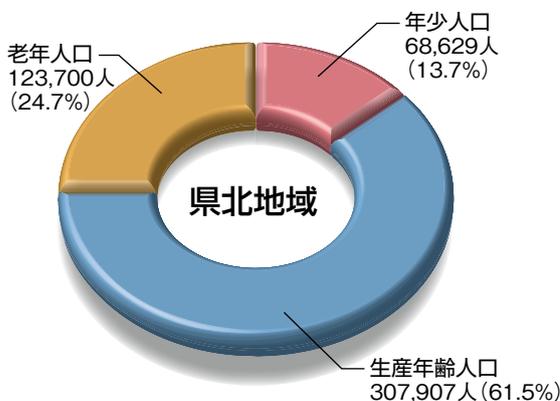


●吾妻連峰の雪うさぎと桃畑

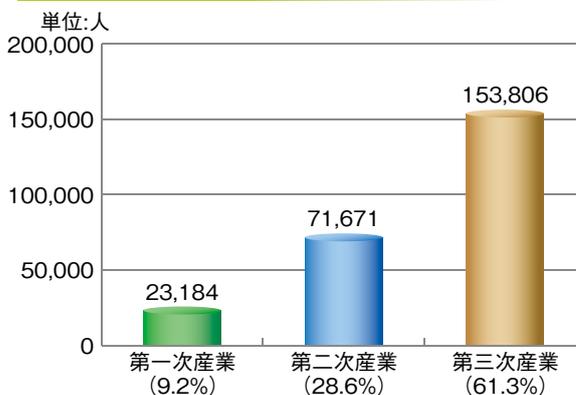
産業別総生産の構成



年齢別人口



産業別就業人口の構成



- 県北地域は、福島県の北部に位置し、西に吾妻・安達太良連峰、東に阿武隈高地を擁し、中心部を阿武隈川が流れています。行政、教育・文化、商業、金融、医療などの高次都市機能の集積がみられ、本県の政治や教育の中心的役割を担っています。
- 福島市を中心として、情報通信関連産業、電気機械関連産業などの製造業の集積を有し、製造品出荷額等は県内の約26%を占め、県中地域と並んで本県の工業を牽引しています。
- 農業では、福島市、伊達市など北部を中心に県内最大の果樹地帯があり、本県の果実生産額の約75%を占めています。
- 南北に東北新幹線、東北自動車道、山形県方面では山形新幹線などの高速交通体系が整備されており、今後東北中央自動車道の整備を進めることにより、相双地域及び東北地方日本海側との連携の強化が期待されています。

(2)課題

- 人口減少・超高齢社会の到来を迎え、交流人口の拡大が地域活性化の鍵となっていることから、交流人口の誘引方策の創出に向け、自然、景観、歴史文化、産業などの豊かな地域資源をさらに魅力あるものとし、地域内外に情報発信していくとともに、これらを推進する人材の育成も進めていく必要があります。
- 人口減少・高齢化の進行に対応するため、各個人の人権が尊重され、地域で心豊かに生活を送ることができるような子育て支援策や保健・医療・福祉が相互に連携したシステムの充実が求められる一方、地域コミュニティの再生・活性化に対する新たな取り組みが求められています。
- 農林業の振興や農山村の活性化に向け、耕作放棄地の縮小、活用、地域の特徴を生かした果樹・野菜などの生産拡大や高品質化、他産業との連携などによる農林産物の地域ブランド化及び多面的機能を発揮する森林(もり)づくりを推進していくことが重要です。また、農林業従事者の減少や高齢化に対応するため、担い手の育成・確保が求められています。
- 関連産業のすそ野が広く、新たな需要創出や市場規模の拡大が見込まれる産業の集積と地域資源活用型産業の活性化を促進するとともに、南東北三県における企業間ネットワークの形成を図り、広範囲にわたる産業集積を進める必要があります。また、高等教育機関、試験研究機関を中心とした産学官の連携により、製造現場の中核となる人材育成が求められています。
- 地域全体の利便性の向上を図り一体的な地域形成を進めるため、交通弱者にも配慮した生活交通の確保、アクセス道路の機能強化及び情報通信基盤の整備などにより、市町村間や中心市街地と周辺地区、集落間の交流・連携を促進するとともに、中通り軸と北部軸の結節点に位置する地理的特長を踏まえ、隣接県を含めた他地域との広域連携強化のため、さらなる高速交通体系の整備の促進が求められています。

うつくしまコラム
①

人がほほえみ
地域が輝く
ほっとする
ふくしま

ふくしまの人、伝統と文化、
自然を訪ねる美しい旅。

福島県には、それぞれの地域に、
歴史に残る人々の活躍や時を超
えて今に伝える伝統文化、美しい
自然などがたくさんあります。小さな
物語をお楽しみ下さい。

たかむらちえこ
高村智恵子 1886~1938



高村智恵子は明治19(1886)年、
安達郡由井村(現在の二本松市)
に生まれました。

明治36(1903)年、日本女子大学
校(現在の日本女子大学)に進むと、
洋画に興味を持つようになりました。

卒業後、洋画家の道を選んで東京
に残り、明治44(1911)年には創刊された婦人運動
の雑誌『青鞥』の表紙絵を描きました。大正3(1914)
年に彫刻家の高村光太郎と結婚し、金銭的に苦しい
中で制作活動を続けました。

晩年は精神を病み、療養を続けながら多くの紙絵を制
作しました。高村光太郎は亡き智恵子へ鎮魂の想いを
込め、詩集『智恵子抄』を刊行しました。

二本松のちょうちん祭り (二本松市)



今から約370年前の寛永20(1643)年、丹羽光重公が
二本松城主となりました。「よい政治を行うためには、領民
にまず敬神の意を高揚させること」と考え、現在の栗ヶ柵
に二本松神社を祭り、領民なら誰でも自由に参拝できるよ
うにしたのが、提灯祭の始まりといわれています。

現在は10月4、5、6日の3日間が祭礼日。4日は宵祭り、
午後5時に7町内の太鼓台が市内の中心部に集合、二
本松神社の御神火で一斉に提灯に火がとります。1
台に300余の提灯をつけ、7台の太鼓台が情緒豊かな
祭り囃子の調べに合わせて市内を練り歩くさまは壮観で
す。中でも1番の見所は、7町の太鼓台が全て揃う4日の
宵祭りです。

(3) 施策の展開方向

個性が輝く地域活力の創出

各地域の個性を生かしながら、人と地域のつながりに基づいた県北地域一体となった地域づくりを進めます。

持続可能な農林業の確立

県北地域の特長を生かし、果樹・野菜などの園芸作物を中心とした農業の振興を図るとともに、担い手の確保を進め持続可能な農業を築きます。

地域の特色を生かした多彩な産業の振興

多様なものづくり基盤技術が集積されている県北地域の特長を生かしつつ、さらに厚みのあるものづくり産業の集積を図りながら特色ある産業の振興に取り組みます。

安全で安心な生活を支える基盤の整備

安全にかつ安心して地域に住み続けられるよう、医療体制、交通網など、基本的な生活を支える基盤の整備を進めます。

(4) 重点施策

■ 個性が輝く地域活力の創出

- これまで広く認知されてこなかった地域固有の潜在的な資源を発掘し、既存の資源などと結びつけることにより、新たな観光資源として情報発信し着地型観光を推進します。また、相双地域、会津地域などの複数の地域にわたる広域観光ルートの開発により滞在型観光の定着化を図ります。
- 地域の個性を生かした中心市街地活性化への取組みを推進するため、まちづくり団体など多様な主体との連携強化、市町村の中心市街地活性化基本計画や商業まちづくり基本構想の策定、空き店舗の活用など、市町村が必要とする取組みを支援します。
- 比較的恵まれた交通アクセスと豊かな里山の魅力を生かし、過疎・中山間地域などにおいて定住・二地域居住を推進するとともに、農業・宿泊体験などの受入体制の整備・充実により、交流人口の拡大を図ります。
- 住民の社会活動への参画を促すとともに、人口の減少、高齢化が進行し地域活力の低下が予想される地域に対し、都市部住民や大学生などとの交流を図りながら、地域の将来を住民自らが考え、自ら行動する住民主体の地域づくりを支援します。



● 子ども農山漁村交流プロジェクトでの農作業体験

■持続可能な農林業の確立

- 北部のモモ等の果樹・野菜、南部のアスパラガス等の野菜・水稻等、農地を有効に活用した園芸作物などの生産拡大を図るとともに、安全で安心な農林産物の供給体制の確立や環境と共生する農林業を進めます。
- 農林業を支える担い手の育成や新規参入者の確保を図り、担い手を中心とした生産体制、産地の強化を図ります。
- 食品・飲料関連産業などとの農商工連携や地産地消を推進し、農林産物の高付加価値化、地域ブランド化を図ります。

■地域の特徴を生かした多彩な産業の振興

- 幅広い既存産業の集積や高速交通体系など整備された物流基盤等を最大限に生かし、輸送用機械関連産業、医療・福祉機器関連産業などの高度技術産業や、県北地域の豊かな農産物資源も活用できる食品・飲料関連産業のさらなる集積を促進するとともに、既存立地企業への継続的なフォローアップを通して、地域経済の活性化や雇用の創出を図ります。
- 産業基盤をより強化するため、福島大学やハイテクプラザなど既に産学官の連携の実績のある高等教育・試験研究機関などと連携し、「県北技塾」を始めとした各種人材育成事業の実施を通じて、企業が必要とする人材の育成を図ります。
- 企業間交流や取引拡大を促進するため、商談会などの情報提供や情報交換の場の設置などを通して、企業間におけるネットワーク構築への取組みを支援します。



●福島大学での産学官連携セミナー

■安全で安心な生活を支える基盤の整備

- 北東部を含む広域的な病院群輪番制の構築などにより救急医療体制の充実を進めるとともに、保健・医療・福祉の専門機関と緩和ケア支援市民団体などとの連携により在宅ケア体制の整備を図ります。
- 交通弱者にも配慮された利便性の高い生活交通の確保のため、市町村などが行う地域の特性を踏まえた交通体系の再構築に向けた検討及び多様な交通システムの実施に対し支援します。
- 安全で安心な生活を支えるため、地域内外を結ぶ主要な生活道路の整備を進める一方、県内外との人やモノの交流拡大を図るため、東北中央自動車道の早期の整備を促進するとともに、高速道路へのアクセス道路などの整備を進めます。

2

県中地域

(1) 地域特性

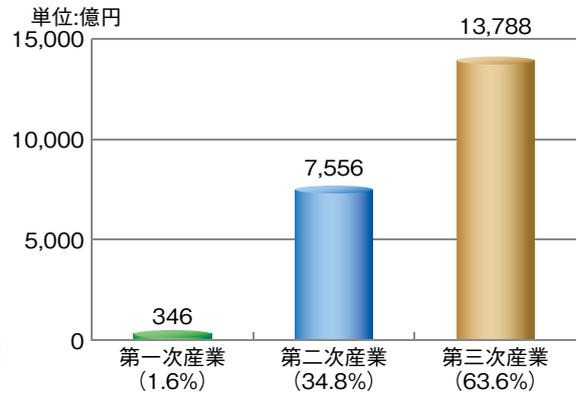


- 面積
2,406.29km²(県全体の17.5%)
- 世帯数
198,457世帯(県全体の27.1%)
- 人口
554,223人(県全体の27.1%)
- 就業人口
272,600人(県全体の27.0%)
- 地域内総生産
約2兆1,239億円(県全体の26.9%)

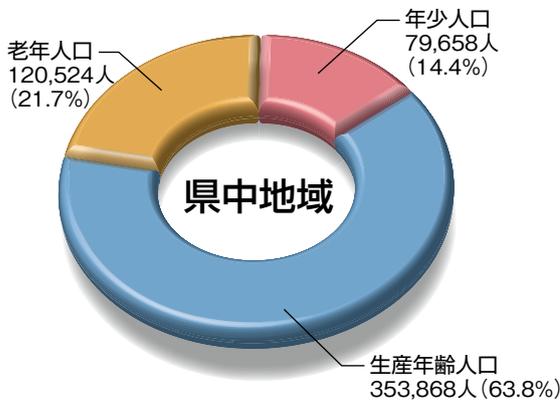


●三春の滝桜

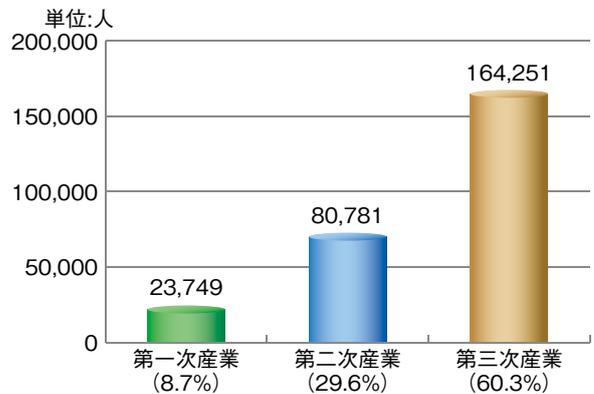
産業別総生産の構成



年齢別人口



産業別就業人口の構成



- 県中地域は、福島県の中央に位置し、中心を阿武隈川が流れ、その流域に安積平野が広がっています。西側には奥羽山脈や猪苗代湖、東側には阿武隈高地が続いています。
- 製造品出荷額等が県内の約26%を占めるとともに、年間商品販売額も県内の約44%となるなど、本県経済の中心的な役割を担っており、今後も、牽引役として本県経済をリードしていくことが期待されています。
- 農業生産では、米・野菜・畜産が中心となっており、本県の生産額の約25%を占めています。
- 福島空港によって北海道・西日本・東アジアと直結しています。南北に東北新幹線、東北自動車道、国道4号、東北本線など、東西には磐越自動車道、国道49号、磐越西線、磐越東線などが整備されており、首都圏、北陸地方、東北地方を結ぶ交通の結節点となっています。

(2)課題

- 高度技術産業の振興や多様な就業機会を確保するため、企業誘致の展開、事業化支援の強化、産業人材育成などの取組みを推進するとともに、農業分野における特色ある産地形成や収益性の高い農業経営の確立を推進していく必要があります。
- 人やモノの交流拡大を推進するため、福島空港の利用促進による定期路線などの維持・拡大に努めるとともに、あぶくま高原道路等の道路網の整備を進めることなどにより、地域資源の連携強化による広域観光の推進や物流機能の強化を図っていく必要があります。
- 過疎・中山間地域における活力の向上を図るため、地域の魅力アップにつながる取組みを推進するとともに、地域コミュニティ再生・活性化への支援、情報通信基盤の整備促進など、各地域の特性に応じた事業を展開していく必要があります。
- 豊かな自然環境との共生を図るため、水環境への負荷を低減するとともに、生態系に配慮した河川などの整備や環境と共生する農業の推進、適正な森林管理に努める必要があります。
- 誰もが安全で安心して暮らせる社会を実現するため、保健・医療・福祉体制の充実、生活交通の確保、中心市街地の活性化などに努めるとともに、人口減少・高齢化の進行に対応した環境の整備を図る必要があります。

うつくしまコラム
②
ふくしま
ほっとする
地域が輝く
人がほほえみ

ふくしまの人、伝統と文化、自然を訪ねる美しい旅。

福島県には、それぞれの地域に、歴史に残る人々の活躍や時を超えて今に伝える伝統文化、美しい自然などがたくさんあります。小さな物語をお楽しみ下さい。

たいまつ 松明あかし (須賀川市)



松明あかしの由来は、今から400年以上前にさかのぼります。当時の須賀川城主の二階堂氏が、伊達政宗に城を攻め落とされました。この時の激しい戦いで戦死した多くの人々の霊を弔うために、行われるようになったと伝えられる伝統行事です。

現在は、毎年11月の第2土曜日に行われます。当日は、長さ10m、重さ3トンもある大松明や姫松明が担がれ、松明あかしの会場となる翠ヶ丘公園内の五老山に向かって街を練り歩き、その後を武者行列や姫行列が続きます。夕闇にかがり火が映えるころには、五老山の山頂に立てられた30本以上の本松明と須賀川城に見立てた仕掛け松明に火がつけられ、一大戦国絵巻が再現されます。

ファン・ドールン 1837~1906



ファン・ドールンは、オランダの優秀な水利土木の技術者で、明治政府の招きにより、明治5(1872)年2月に来日しました。

政府の土木寮の長工師(技師長)として雇われ、日本各地の川の改修や港の建設に貢献しました。

福島県内では「安積疏水の開さく」(猪苗代湖の水を安積平野に引くための大工事)の水路コースを検討しました。明治11(1878)年11月に、日本人が測量や設計をした資料に基づいて現地を調査し、「安積疏水の開さく」に合った水路コースを報告書にまとめました。

この報告に沿って工事が進められ、猪苗代湖の水は、湖の水位を変えずに郡山地域に流れるようになり、人々に多くの恵みをもたらしました。

(3) 施策の展開方向

未来を拓き、地域の活力を支える産業の集積と高度化

高度技術産業の振興や多様な就業機会の確保、人材の育成を図るとともに、収益性の高い農林業の実現や農商工連携による高付加価値化、地産地消を推進します。

「福島空港」と地域資源を活用した交流人口の拡大

福島空港の利用促進を図るとともに、多様な地域資源を有機的に連携させた広域観光や物流機能の強化を推進します。

「地域の宝」を生かした過疎・中山間地域の振興

地域の宝を活用した元気な地域づくりや定住・二地域居住の推進、農林業の担い手の育成・確保、多様な農林産物の生産拡大などを推進します。

豊かな自然環境と調和のとれた地域社会の形成

水質改善対策に努めるとともに、環境と共生する農業の推進などにより、人口が集中する都市環境と豊かな自然環境の調和を図ります。

安全で安心に暮らせる地域社会の形成

救急医療の確保や子育て支援ネットワークの構築など、保健・医療・福祉施策の充実に努めるとともに、生活交通の確保や中心市街地における「持続可能な歩いて暮らせるまちづくり」を推進します。

(4) 重点施策

■ 未来を拓き、地域の活力を支える産業の集積と高度化

- ハイテクプラザや農業総合センター、(財)福島県産業振興センター、県内大学などの連携による広域的な産学官ネットワークを活用した共同研究・新事業創出への支援や戦略的な企業誘致を進めます。
- 日本大学工学部やテクノアカデミー郡山、地元工業高校などとの連携の下、常に変化し続ける高度技術産業や地域産業に柔軟に対応できる人材育成を図ります。
- 農林産物の需給動向を踏まえながら、水田のフル活用や園芸作物の生産拡大などにより収益性の高い農林業を実現していくほか、食品関連・加工企業が多く立地し消費者が多い本地域の利点を生かしながら、農商工連携による高付加価値化や農産物直売所を拠点とした地産地消を推進します。



●テクノアカデミー郡山での実習風景

■「福島空港」と地域資源を活用した交流人口の拡大

- 国際・広域交流機能の要である福島空港の活性化のため、地域と一体となった利用促進や県民の空港として親しむことができるにぎわいづくりに努めます。
- あぶくま高原道路などの高速交通体系の利活用や地域のまちづくりと一体となった道路整備を進め、三春滝桜などを代表とする地域資源を有機的に連携させた広域観光や物流機能の強化を推進します。



●福島空港

■「地域の宝」を生かした過疎・中山間地域の振興

- 地域に息づく歴史・伝統文化などの「地域の宝」の掘り起こしや情報発信により地域のブランド力を高め、地域に対する誇りや愛着が持てる元気な地域づくりを進めるとともに、併せて、情報通信基盤の整備などを促進します。
- グリーン・ツーリズムや子ども農山漁村交流プロジェクト等との連携などにより、都市住民との交流や定住・二地域居住を推進します。
- 農林業の多様な担い手の育成・確保を図るとともに、阿武隈高地における遊休農地を放牧利用した肉用牛生産など、多様な農林産物の生産拡大や加工などによる高付加価値化を推進します。

■豊かな自然環境と調和のとれた地域社会の形成

- 猪苗代湖や地域を流れる河川などの水環境を保全するため、地域住民や関係団体、市町村と一体となって、人為的な汚濁負荷の削減を始めとした水質改善対策に努めます。
- 生態系や湖水・河川環境に配慮した環境と共生する農業や河川などの整備を推進するとともに、林道網などの基盤整備を図り、間伐などの森林整備を進め、森林の持つ多面的機能の発揮に努めるなど、都市環境と豊かな自然環境の調和を推進します。

■安全で安心に暮らせる地域社会の形成

- 地域の実態に即した救急医療の確保や地域全体で子育てを支援するネットワークの構築を図るほか、保健・医療・福祉が相互に連携した質の高いサービスの提供など、保健・医療・福祉施策の充実に努めます。
- 地域住民が利用しやすい生活交通の確保に努めるとともに、中心市街地においては「持続可能な歩いて暮らせるまちづくり」を推進します。

3

県南地域

(1) 地域特性

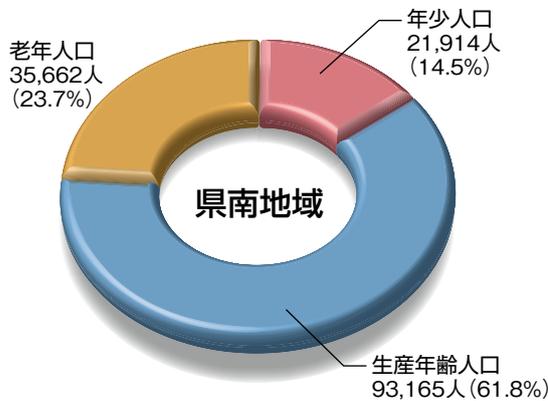


- 面積
1,233.24km²(県全体の8.9%)
- 世帯数
50,523世帯(県全体の6.9%)
- 人口
150,762人(県全体の7.4%)
- 就業人口
76,321人(県全体の7.6%)
- 地域内総生産
約6,286億円(県全体の8.0%)

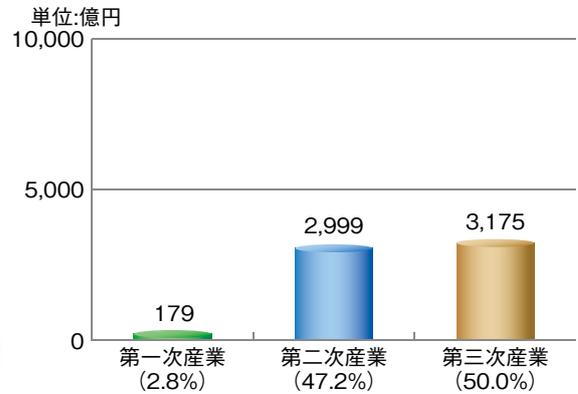


●南湖公園

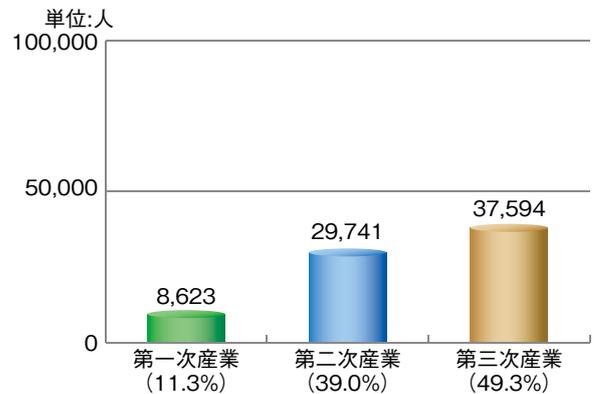
年齢別人口



産業別総生産の構成



産業別就業人口の構成



- 県南地域は、福島県の南部に位置し、首都圏と隣接する地理的優位性があります。また、阿武隈川、久慈川などの源流を有し、美しく豊かな自然に恵まれるとともに、古くから奥州の玄関口として知られる白河の関や日本最古の公園といわれる南湖公園など歴史的文化遺産が数多く残されています。
- 東北新幹線、東北自動車道、福島空港へのアクセスとなるあぶくま高原道路などの高速交通体系が発達し大都市圏との時間的距離が短いこと、また、本県の特徴である地震等の災害に強い地盤であることなどにより、製造業を中心に企業が立地し、半導体関連産業、輸送用機器関連産業などの集積があります。

- 農業では、多様な自然条件を生かした野菜、花きなどの生産が盛んで、高速交通体系により首都圏を中心に各地へ出荷されています。また、県内でも有数のスギを中心とした林地地帯であり、良質な素材の供給が行われています。
- 年少人口比率及び生産年齢人口比率が他地域に比べて高く、将来の地域の発展に必要なポテンシャルを有しています。

(2)課題

- 首都圏と隣接する地域特性を生かした県南地域全体の振興を図るため、高速交通体系へのアクセス網や県土の南部軸など地域連携の軸となる幹線道路の計画的整備を推進するとともに、優良企業のさらなる誘致を進める必要があります。
- 県南地域が将来にわたり持続可能な発展を続けていくため、主要産業である農林業や商工業における次代の担い手を確保するとともに、質の高い生産活動を担うことができる産業人を育成する必要があります。
- 市町村や民間との連携はもとより、隣接する他地域との連携を促進し、広域観光や定住・二地域居住、地域コミュニティの再生・活性化に取り組む必要があります。
- 源流の里と呼ぶにふさわしい自然環境を保全し、水源地域としての責務を果たすため、官民一体となった水源域の環境保全に取り組む必要があります。
- 住民誰もが安全に、安心して暮らせる県南地域の実現に必要な社会基盤の整備を進めるとともに、地域医療の充実、次世代の育成に取り組む必要があります。

うつくしまコラム
③

人がほほえみ
地域が輝く
ほっとする
ふくしま

ふくしまの人、伝統と文化、自然を訪ねる美しい旅。

福島県には、それぞれの地域に、歴史に残る人々の活躍や時を超えて今に伝える伝統文化、美しい自然などがたくさんあります。小さな物語をお楽しみ下さい。

中山義秀 1900~1969



中山義秀は明治33(1900)年、大信村(現在の白河市)に生まれました。

昭和13(1938)年、38歳の時に二人の老人の不思議な交流を通して、人間の業を描いた短編『厚物咲』で第7回芥川賞を受賞しました。早稲田大学在学中に横光利一らと創刊した同人誌に小説を発表した16年後のことでした。

受賞以後は作家としての地位も固まり、昭和33(1958)年、直木賞の選考委員となり、昭和39(1964)年には『咲庵』で野間文芸賞を受賞しました。そして、昭和41(1966)年に『咲庵』をはじめとする業績により日本芸術院賞を受賞し、次いで芸術院会員に選ばれました。

都々古別神社の御田植(棚倉町)



棚倉町には、八槻と馬場にそれぞれ八槻都々古別神社と馬場都々古和氣神社が祭られています。このうち八槻都々古別神社に古くから伝えられている御田植は、神社に奉仕する社家(神主)の人々によって、拝殿で演じられる予祝(前祝い)の芸能です。伝わった時期は明らかではありませんが、その形態から、少なくとも室町時代以前にさかのぼるものと思われます。

この御田植は、毎年旧暦の1月6日に豊作を願って神楽などとともに稲作の作業過程をせりふと簡単な舞により、模擬的に演じるもので、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

(3) 施策の展開方向

地域の特性を生かした活力ある産業の振興

首都圏との隣接性や恵まれた交通アクセスなどの地域の強みを生かした産業集積により県内製造業の中核地域を目指すとともに、地域資源を最大限に活用した農林業の振興を目指します。

地域の持続可能な発展を担い、自らの手で地域を牽引できる人づくり

活力ある地域産業の発展に不可欠な高度の技術を有する人材を確保しながら、地域の将来を自らの手で切り開いていく次代の担い手づくりを進めます。

広域連携による地域内外との交流の促進

市町村、民間団体、さらには F I T 圏域を含めた隣接地域などとの一層の連携により、広域観光や体験型観光の促進、定住・二地域居住の推進を図ります。

自然にあふれ人々がいきいきと心豊かに暮らせる源流の里づくり

自然環境の保全や社会基盤の整備により人に優しく住みやすい環境を整えながら、住民誰もが明るく元気な、魅力あふれる地域づくりを目指します。

(4) 重点施策

■ 地域の特性を生かした活力ある産業の振興

- 優良企業の誘致を進めるとともに、県南地域の核である白河市の中心市街地活性化を支援し地域経済力を高めながら、新卒者の定着率の向上やUターンの拡大を図ります。
- 企業間ネットワークの構築による、効果的・効率的な物流や共同研究などの取組みを支援するとともに、ハイテクプラザなど試験研究機関や大学等、さらには民間の産業支援組織などとの連携により、地域一体となって活力ある産業基盤の形成を進めます。
- 活力ある地域経済を支えるため、地域連携の軸となる国道289号、国道294号、国道349号などの幹線道路の整備を推進します。
- 農林業生産の拡大を進めるため、夏も冷涼な西白河地方から冬でも温暖な東白川地方まで農産物生産に適した恵まれた自然環境と大消費地に隣接した地域優位性を最大限に活用しながら、新たな産地づくりや、企業などとの農商工連携による新商品開発や販売チャンネルの構築、環境と共生する農業や木質バイオマスの利用促進など、時代潮流に合った新たな農林業の展開を図ります。



●首都圏の小学校によるふれあい農業・農村体験

■地域の持続可能な発展を担い、自らの手で地域を牽引できる人づくり

- 年少人口比率の高い地域性を背景として、多くの人が地域の文化に触れ親しみ、スポーツに取り組む環境づくりを支援することで、子どもたちの心身の健やかな成長を図ります。また、農作業等の就労体験活動などを通じたキャリア形成支援等に取り組みながら、地域住民やNPO、学校、行政などが一体となって、地域の将来を支える人材育成に努めます。
- 質の高い生産活動を担うことができる産業人を確保するため、大学など高等教育機関や市町村、民間の産業支援組織などと連携し、管内における産業人養成のための高等教育のあり方について検討しながら技術指導講座などによる人材育成を図ります。

■広域連携による地域内外との交流の促進

- 国道289号甲子道路や、平成22年度に全線開通するあぶくま高原道路による交流拡大を踏まえ、地域一体となった観光交流を推進するとともに、南会津地域・いわき地域、さらにはF I T構想に取り組む隣縣市町村と相互に連携しながら、イベントの開催や地域における体験交流の場の拡大、魅力あふれる回遊ルートの創造などにより、一層の交流拡大を図ります。
- 官民一体となった推進体制を整備しながら、首都圏に隣接する地域特性を十分生かした定住・二地域居住を推進します。
- 白河の関や南湖公園を始めとした歴史的な文化資源や地域住民の手による文化芸術活動など、県南地域に息づく文化の魅力を、文化財センター白河館の活用や関係機関などとの連携を進めながら、全国に発信します。

■自然にあふれ人々がいきいきと心豊かに暮らせる源流の里づくり

- 阿武隈川、久慈川などの源流域や南湖において、隣接県を含めた関係市町村や環境保全団体と連携しながら、子どもたちの環境学習やもりの案内人活動、清流の保全や水環境の改善など、流域住民と一体となった活動を進めます。
- 源流の里にふさわしい自然環境を次代につなぐため、豊かな森林(もり)づくりによる水源林の保全や、水源域河川の整備を進めます。
- 年少人口比率の高い地域がある一方で、高齢化が進んでいる地域もあることから、ユニバーサルデザインの視点に立った生活道路や歩道などの計画的整備、良質な地域医療の提供などにより、一人ひとりに優しく誰もが暮らしやすい地域づくりを進めます。
- 特に過疎化が進む地域において、住民自らが取り組む地域コミュニティの活動を支援するとともに、地域の自立的発展を目的としたコミュニティビジネスの普及に努めます。



●森林(もり)づくりの大切さを学ぶ森林環境学習

4

会津地域

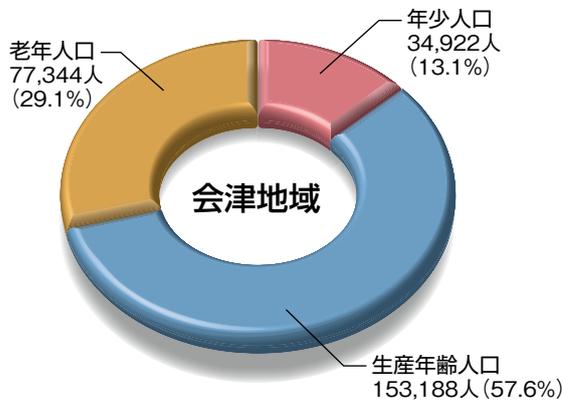
(1) 地域特性

- 面積
3,079.05km²(県全体の22.3%)
- 世帯数
93,591世帯(県全体の12.8%)
- 人口
265,946人(県全体の13.0%)
- 就業人口
135,069人(県全体の13.4%)
- 地域内総生産
約9,290億円(県全体の11.8%)

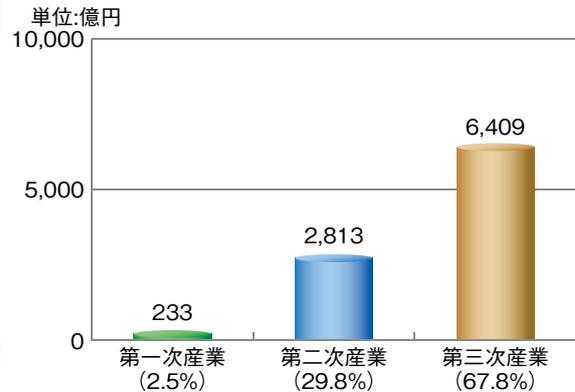


●鶴ヶ城

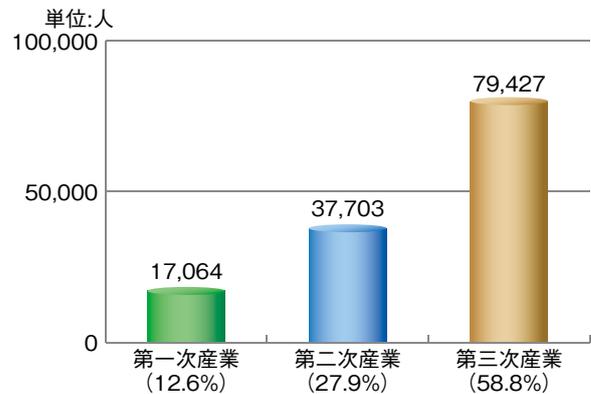
年齢別人口



産業別総生産の構成



産業別就業人口の構成



- 会津地域は、福島県の北西部に位置し、磐梯山や猪苗代湖に代表される山岳、湖沼などの美しい自然に恵まれています。中山間地域、特に山間部においては、過疎化、高齢化が進むとともに、豪雪地帯となっています。また、阿賀野川水系では水力発電所や地熱発電所が立地し、クリーンエネルギーの供給地域となっています。
- 全国に名高い歴史、文化を有しているほか、会津三泣きに代表されるような、頑固さと人情深い気質があります。
- 会津若松市を中心に電子部品、機械加工などの工業集積があるほか、清酒・味噌・漆器などの伝統的な産業が立地しています。また、全国屈指の観光資源に恵まれ、本県の観光・リゾートの中心的な地域です。
- 中央平坦部では稲作中心の農業が行われ、会津産の米は全国的に高い評価を受けています。

- 南北に国道118号、国道121号、会津鉄道、東西には磐越自動車道、国道49号、磐越西線、只見線などが整備されています。今後、会津縦貫道(会津縦貫北道路、会津縦貫南道路)の整備を進めることにより、首都圏や東北各県との連携の強化が期待されています。

(2)課題

- 交流人口を拡大し地域を活性化するために、地域内外との連携、歴史や文化に育まれた豊かな観光資源の活用、地域の魅力を織り込んだ観光商品の開発などに取り組む必要があります。また、歴史や自然、地域の伝統・文化などの地域資源を有効に活用し、発信するとともに、広域ネットワークの形成とアクセス機能の強化を通じて、さまざまな主体の交流を促進する必要があります。
- 過疎化、高齢化が進行する小規模自治体、地域コミュニティに対する広域的、専門的な支援が求められています。また、過疎・中山間地域の医師確保と定着に引き続き取り組むほか、特に、産婦人科の医師確保に取り組む必要があります。
- 森林、農地の荒廃や異常気象等に起因する土砂災害、水害などを防ぐため、市町村との連携による県土づくりに取り組む必要があります。また、冬期間の除雪などにより安全と安心を確保する必要があります。
- 地域経済の活性化を図るため、産学官連携、企業連携などを活用し、高度な部材産業、高度情報サービス産業、食品関連産業などの集積促進や伝統的な産業の振興を図る必要があります。
- 農林業の振興を図るため、地球温暖化、世界的な食糧需給のひっ迫など社会環境の変化に対応した農林業の推進、農商工連携、耕作放棄地の縮小を促進する必要があります。
- 恵まれた自然環境を生かして、環境を重視した時代に対応するモデル的地域を作るため、森林環境の適正な管理や猪苗代湖などの水環境の保全を進めるとともに、会津の歴史や文化と調和した景観の保全に努める必要があります。

人がほほえみ
地域が輝く
ほっとする
ふくしま
うつくしまコラム
4

ふくしまの人、伝統と文化、自然を訪ねる美しい旅。

福島県には、それぞれの地域に、歴史に残る人々の活躍や時を超えて今に伝える伝統文化、美しい自然などがたくさんあります。小さな物語をお楽しみ下さい。

さいとう きよし
齋藤 清 1907~1997



齋藤清は明治40(1907)年、会津坂下町に生まれ、4歳のときに北海道夕張に転居しました。

幼い頃から絵を描くことが好きで、24歳の時に上京し、独学で油絵を学びました。安井曾太郎の木版画に触発され、木版画の制作を始めると、版画制作に傾倒するようになりました。

昭和23(1948)年、日本に駐在する外交官婦人による若手芸術家の支援を目的とするサロン・ド・プランタン展で「ミルク」が1等賞を受賞しました。その後、国内外で数多くの栄誉に輝き、海外にも作品を出品しました。

昭和62(1987)年、鎌倉から柳津町に創作の場を移し、平成7(1995)年には、その功績により文化功労者に選ばれました。

からむし織 (昭和村)



昭和村のからむし栽培は、室町時代に当時の会津藩主が栽培を奨励したのが始まりとされています。長年にわたり栽培されているのは、村の気候、風土がからむし栽培に適していたことと、高い栽培技術で品質の良いものが生産できたためだと考えられます。

からむしはイラクサ科の多年草植物で、その表皮で原芋という繊維ができ、その繊維で反物、帯、草履などの製品が作られます。繊維が強く丈夫で、通気性も良く、美しい光沢があることが高く評価されています。

昭和村は、からむしの栽培から糸づくり、織りに至るまでの伝統を今に伝える全国でも数少ない地域です。からむしの生産と芋引きは国選定保存技術に認定されています。

(3) 施策の展開方向

地域づくりに貢献する新たな観光の推進

豊かな観光資源や地域の魅力を生かした、広域観光、グリーン・ツーリズム、産業観光などの地域に活力をもたらす新しい観光への取組みを支援します。

地域特性を生かしたさまざまな交流の促進

歴史や自然、地域の伝統・文化などの地域資源を生かした交流を促進するとともに、過疎・中山間地域の市町村との連携・支援を推進します。

地域企業の強みを生かし、社会環境の変化にも対応した産業の振興

会津大学等との産学官連携、企業連携などを活用するとともに、研究環境の整備、人材育成などを通じて、産業集積の促進を図ります。また、社会環境の変化に対応した農林業などの取組み支援や農商工連携を推進します。

自然環境、景観、文化の保全・継承と活用

森林環境の適正な管理を推進するとともに、猪苗代湖、只見川などの自然環境、景観の保全・活用や歴史、伝統、文化などの継承・活用による地域活性化を図ります。

(4) 重点施策

■ 地域づくりに貢献する新たな観光の推進

- 地域に眠る素材の発掘と磨き上げによる会津ならではの新しい観光商品の開発やグリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムなどにより、滞在型観光を推進します。
- 会津地域全体に広がる観光資源を生かした交流人口の拡大による地域活性化を図るため、会津縦貫道(会津縦貫北道路、会津縦貫南道路)の整備など、広域的なネットワーク形成による連携軸の強化や会津の魅力の発信による観光交流を推進します。



●教育旅行(りんごの収穫体験)

■地域特性を生かしたさまざまな交流の促進

- 奥会津地域などの過疎化、高齢化が著しく進行する地域に対して、地域経営に必要なさまざまな支援を行います。また、クリーンなエネルギーである水力発電などと地域の共生が図れるよう支援します。
- 地域住民が誇りと自信を持てる地域づくり活動や地域資源を生かした地域の再生・活性化の取り組みを支援します。
- 地域住民の健全な心身や豊かな人間性、郷土愛をはぐくむ食育に取り組み、食に関する知識や食を選択する力の習得を支援します。
- 過疎・中山間地域の安全で安心な生活を支えるため、地域医療の充実に努めるとともに、自然災害への適切な対応を図るほか、未改良区間や冬期交通不能区間の解消、代替路線のない地域の生活道路の整備に努めます。

■地域企業の強みを生かし、社会環境の変化にも対応した産業の振興

- 産学官連携、企業連携などの多種多様なネットワーク組織を支援することにより、産業集積のための基盤づくりを推進します。また、真面目で勤勉とされる労働力などの立地優位性や会津大学等の産学官が持つ研究・技術シーズを生かした企業誘致を推進します。
- 県内一の水田整備率など恵まれた生産基盤や地域資源・特性を生かし、農林業の生産力・経営力の強化や農商工連携の推進などにより地域経済の活性化を図ります。
- 職業能力開発を一層推進することにより、地域経済に適合し、社会や企業のニーズに対応した人材の育成を図ります。

■自然環境、景観、文化の保全・継承と活用

- 磐梯猪苗代地域や阿賀川・只見川流域に代表される会津の優れた自然環境や景観の保全に努めます。また、猪苗代湖や裏磐梯湖沼群などの水環境の保全に努めます。
- 森林環境の保全とその利活用を図るとともに、農業の持つ多面的機能を生かしつつ、環境と共生する農業を推進します。
- 地域に伝わる伝統・文化・技術などの保存・継承と、これらの活用による発展的・創造的な取り組みを支援します。



●七日町の街並みとまちなか周遊バス「ハイカラさん」

5

南会津地域

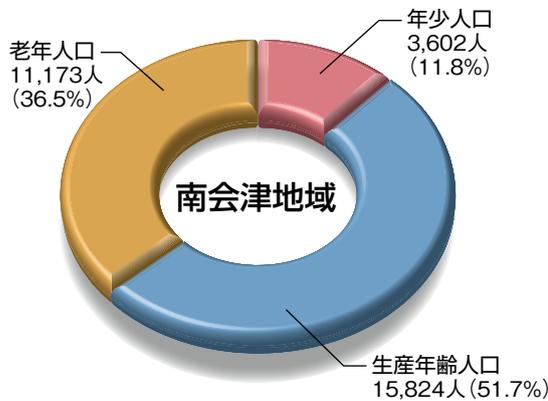
(1) 地域特性

- 面積
2,341.64km²(県全体の17.0%)
- 世帯数
10,991世帯(県全体の1.5%)
- 人口
30,599人(県全体の1.5%)
- 就業人口
16,713人(県全体の1.7%)
- 地域内総生産
約1,114億円(県全体の1.4%)

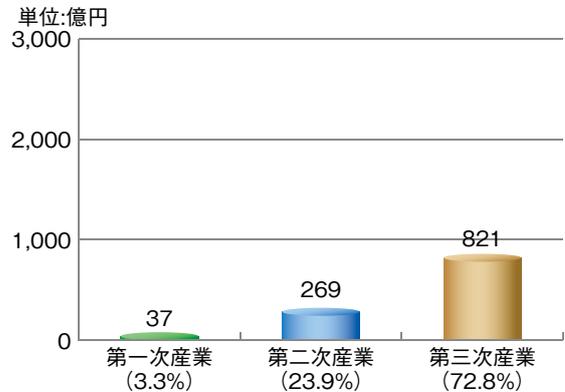


●尾瀬(大江湿原と燧ヶ岳)

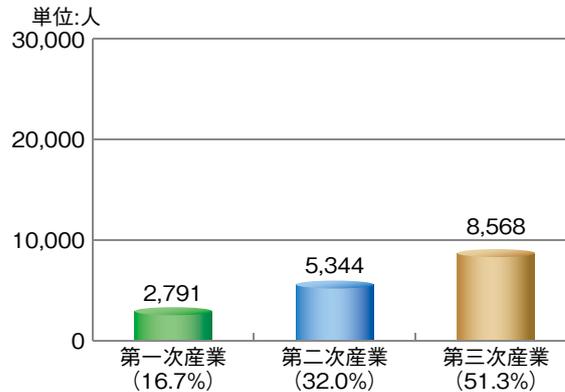
年齢別人口



産業別総生産の構成



産業別就業人口の構成



- 南会津地域は、福島県の南西部に位置し、阿賀川流域の東部地域と只見川・伊南川流域の西部地域に大別され、これらの河川に沿って集落と耕地が形成されています。また、本地域は山間・高冷地で、全国屈指の豪雪地帯でもあり、只見川を中心に豊富な雪解け水を利用した水力発電所が立地し、主に首都圏に電力を供給しています。
- 特に山間部において過疎化が進行し、県内でも人口減少・高齢化が先行している地域の一つとなっています。
- 祭りや食、年中行事などの伝統文化を継承していこうという意識が強い地域で、茅葺き家屋などの伝統的建造物等を積極的に保存していこうとする集落があります。
- 尾瀬などの湿原や広大なブナ原生林などの雄大な自然環境、会津田島祇園祭、檜枝岐歌舞伎などの伝統文化、日本の原風景というべき大内宿や前沢曲家集落に代表される歴史的景観、又

キー場などの多様な観光資源と山間・高冷地の特質を生かして栽培されたトマトやアスパラガス、りんどう、そば、キノコ類などの農林資源に恵まれており、これらの地域資源を生かした観光関連産業及び農林業が主要な産業となっています。

- 南北には会津線及び会津鬼怒川線、国道121号が整備されており、東西は国道118号によって県中地域と、国道252号や只見線などによって新潟県と結ばれています。平成20年に国道289号甲子道路が整備され、県南地域及び北関東地方各県との交流促進の基盤が整いました。

(2)課題

- 地域の特性に応じた企業誘致を推進するとともに、主要産業である農林業の振興により経済の活性化を図るため、地域の特性を生かした農林産物の栽培、食の安全と安心に配慮した特産品の開発、グリーン・ツーリズムや農商工連携の仕組みなどを推進し、若者が就労しやすい魅力ある農林業を創造していく必要があります。
- 過疎化、高齢化が進行する状況において、地域コミュニティの維持・活性化を図るとともに、集落等の範囲を越えた連携の仕組みを構築するなど地域における自助・共助の仕組みなどを支援していく必要があります。
- 交流人口の拡大により地域経済の活性化を図るため、広域観光圏の形成や多様な地域資源を生かした滞在型観光を推進するとともに、会津縦貫道(会津縦貫南道路)や国道289号八十里越などの広域的な道路網を整備していく必要があります。また、首都圏と直結した地域性を生かしたUターンや定住・二地域居住の推進に努める必要があります。
- 尾瀬や広大なブナ原生林に代表される豊かな森林などの貴重な自然環境や、日本の原風景というべき大内宿や前沢曲家集落に代表される歴史的景観などの地域資源を後世に継承していくため、関係機関と連携して自然環境の適正な利用と保全に取り組むとともに、歴史的景観保全の取り組みを支援していく必要があります。
- 地域住民が安全に安心して生活できるよう、医療や保健福祉、公共交通、情報通信などの地域における生活基盤を維持、整備していく必要があります。また、冬期間の交通を確保するなど雪に強い生活環境の整備を図る必要があります。

うつくしまコラム
5
ふくしま
ほっとする
地域が輝く
人がほほえみ

ふくしまの人、伝統と文化、自然を訪ねる美しい旅。

福島県には、それぞれの地域に、歴史に残る人々の活躍や時を超えて今に伝える伝統文化、美しい自然などがたくさんあります。小さな物語をお楽しみ下さい。

ひらの ちょうぞう

平野長蔵 1870~1930



平野長蔵は明治3(1870)年、檜枝岐村に生まれました。懸ヶ岳の開山を志し尾瀬に入り、その素晴らしさに心を打たれました。その後、尾瀬沼のほとりに丸太小屋を建て、住み始めました。

平野長蔵は尾瀬の自然をこよなく愛し、植物学者の牧野富太郎が研究のため尾瀬を訪れた際、多くの植物を採取したため、「植物は尾瀬の生命である」といさめたというエピソードも伝えられています。電力会社による尾瀬沼からの取水に反対するなど、尾瀬の保護に貢献しました。

会津田島祇園祭 (南会津町)



今から800年以上昔、鎌倉時代の文治年間に、この地方を治める長沼五郎宗政が、牛頭天王 須佐之男命を天王社に祭ったことが始まりで、その後、今から約400年前の慶長8(1603)年に、領主長沼盛実が京都八坂神社に準じた祭礼を取り入れ、現在の祇園祭に至ったとされています。

時代を経る中で様々な改変を重ねてきましたが、その伝統は脈々と今に伝わり、その礼式が保持されています。祇園祭はお屋敷という特色ある祭りの組織を中心に執り行われ、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

(3) 施策の展開方向

地域特性を生かした経済の活性化

地域の主要産業である農林業の振興を図るとともに、新規創業や異業種参入など新たな事業への取組みに対する支援、後継者の育成などにより地域経済の活性化を図ります。

集落機能の維持に対する支援等

伝統文化の継承や緊急時の体制整備など集落や地域が持つ機能を維持、活性化していく取組みなどを支援します。

地域資源を活用した交流人口の拡大

豊かな自然環境や会津田島祇園祭、檜枝岐歌舞伎に代表される伝統文化などの多様な地域資源を活用した滞在型観光の推進などにより、交流人口の拡大を図ります。また、地域に適した定住・二地域居住を推進します。

地域の自然環境や歴史的景観の継承

尾瀬などの湿原やブナ原生林等の自然環境や日本の原風景というべき大内宿や前沢曲家集落に代表される歴史的景観などの地域資源を後世に継承します。

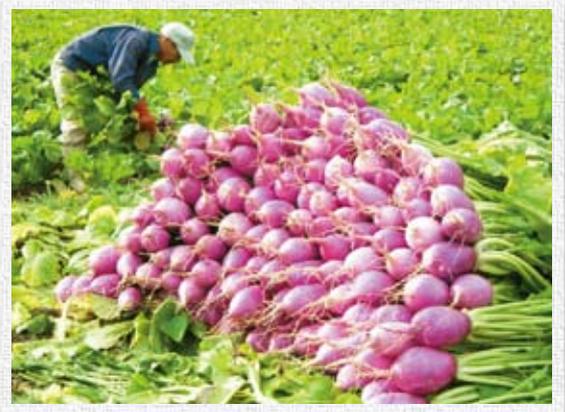
生活基盤の維持・整備による安全で安心な暮らしの確保

過疎化や高齢化が進行する地域において、安全で安心な暮らしを確保するため、医療や保健福祉、交通、情報通信などの生活基盤の維持、整備に努めます。

(4) 重点施策

■ 地域特性を生かした経済の活性化

- 夏季冷涼な気候を生かした園芸作物の産地形成や冬期に農業収入を確保する取組みを支援します。また、直売所などによる販路拡大や農商工連携による付加価値の高い地域特産品の開発、都市交流型農林業の展開、森林資源の有効活用などを図ります。
- 地域の特性に応じた企業誘致の推進や新規創業、異業種参入に係る取組みを支援し雇用創出を図るとともに、生産者と販売者の情報共有やネットワーク化などにより、販路の開拓や地域内における流通の円滑化を促進し生産拡大を図ります。
- 事業などの継承を希望する人の育成を図るほか、農林業については、Uターン者への支援などを通じて新規就業を誘導し担い手の確保を図ります。



● 館岩赤カブの収穫

■集落機能の維持に対する支援等

- 地域づくり計画の策定や祭り、食、年中行事などの伝統文化の継承、さらには、災害など緊急時の情報伝達体制や相互支援体制の整備、構築など集落等の機能を維持、活性化するための取組みを支援します。
- 子どもたちが、地域で心豊かにたくましく育つことができる教育環境の整備、充実に努めるとともに、高齢者や障がい者など誰もが安心して、いきいきと暮らしていけるよう、関係者や関係機関による地域のネットワークの構築、強化を図ります。

■地域資源を活用した交流人口の拡大

- 国道289号甲子道路の開通に伴い、会津・米沢地域観光圏整備推進協議会やFIT構想推進協議会などの広域連携体制を活用し広域観光圏の形成を促進します。また、会津縦貫道（会津縦貫南道路）や国道289号八十里越など広域的な道路網の整備に努めます。
- 自然環境や伝統文化、只見川の水資源を利用した田子倉ダムなどの地域資源を活用したレクリエーションやグリーン・ツーリズム、環境学習など滞在型観光を推進します。また、教育旅行の受入体制を整備し、国内外からの受入拡大を図ります。
- 都市部の住民向けのクラインガルテンの整備など、地域に適した定住・二地域居住について、関係機関と連携しながら推進します。

■地域の自然環境や歴史的景観の継承

- 尾瀬国立公園やブナ原生林などの貴重な自然環境を保全していくため、尾瀬保護財団などの関係機関と連携して、一体的な保護と適正な利用を進めます。また、里山や水辺など多様な自然環境を保全する取組みの支援とその適正な利活用を図ります。
- 豊かな自然環境や大内宿や前沢曲家集落に代表される歴史的景観など、地域の素晴らしさを後世に継承していく取組みを支援します。



●ブナ原生林における森林セラピー

■生活基盤の維持・整備による安全で安心な暮らしの確保

- 県立南会津病院の機能充実を図り、へき地医療拠点病院として地域医療の安定的な確保に努めます。また、保健福祉サービスを確保するための仕組みづくりへの支援に努めます。
- 円滑な交通を確保するため、交通不能区間や危険箇所を解消するとともに、特に冬期における日常生活を維持するため、冬期交通不能区間の解消や除雪体制の整備促進を図ります。また、会津線、会津鬼怒川線について、沿線住民の利用動向などを総合的に勘案しながら、関係自治体等との連携の下に支援します。
- 地域の誰もが情報システムを利用できる環境の実現に向け、携帯電話の通話エリア拡大やブロードバンド環境など情報通信基盤の整備を促進します。
- 地域面積の9割を占める森林の整備等を進め、水源かん養や土砂流出防止など森林の有する公益的機能を高めることにより、安全で安心な生活の確保を図ります。

6

相双地域

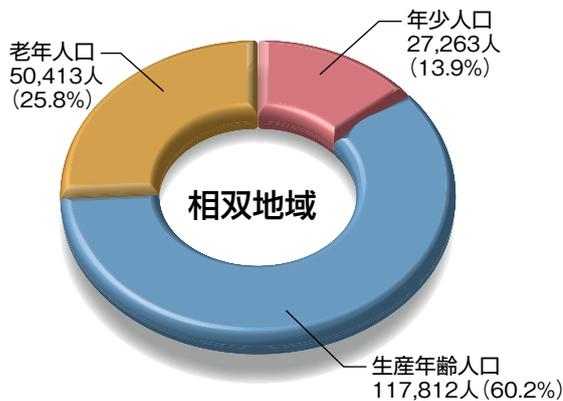
(1) 地域特性

- 面積
1,737.77km²(県全体の12.6%)
- 世帯数
66,405世帯(県全体の9.1%)
- 人口
195,636人(県全体の9.6%)
- 就業人口
97,656人(県全体の9.7%)
- 地域内総生産
約1兆559億円(県全体の13.4%)

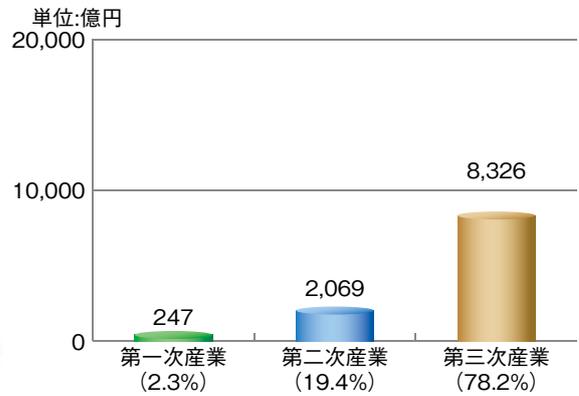


●相馬野馬追(甲冑競馬)

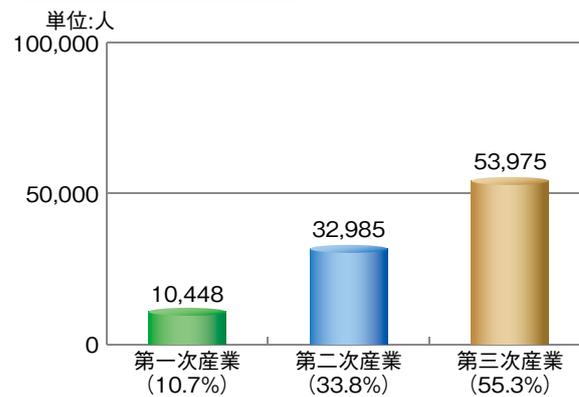
年齢別人口



産業別総生産の構成



産業別就業人口の構成



- 相双地域は、福島県の東部に位置し、平坦部の気候は温暖で降雪もほとんどなく、松川浦や阿武隈の山並みを始めとする海・山・川の豊かな自然、さまざまな農畜産物・水産物など多様な食材に恵まれ、また、相馬野馬追に代表される個性豊かな伝統文化やJヴィレッジなどの地域資源を有しています。
- 機械、電子、精密などのメカトロニクス系産業を始め、幅広い業種にわたって一定程度の集積があり、沿岸部には、原子力発電所と火力発電所が立地し、全国有数の電力供給地帯となっています。
- 農業生産では、米、畜産、園芸作物が中心となっており、阿武隈山間地域では特に畜産が盛んです。また、良好な漁場を生かし、ヒラメ・カレイ類など沿岸性魚類を対象とした漁業が盛んです。

- 重要港湾である相馬港、南北には常磐自動車道、国道6号、常磐線が整備されています。今後、常磐自動車道の全区間の開通、国道115号(阿武隈東道路)の整備の進展により、首都圏などとの多様な交流の飛躍的な拡大とともに、中通り地方との連携の強化が期待されています。

(2)課題

- 域内の相互連携を深め、豊かな自然、優れた伝統文化等の地域資源やスポーツ施設などの集積を生かし、関係機関・団体が一体となって、交流人口の拡大に取り組む必要があります。
- 電源立地地域の特性や常磐自動車道、相馬港などの物流基盤を生かし、宮城・山形両県南部なども視野に入れた産業の集積や高度化を促進するとともに、立地企業の技術力向上、さらには、教育の充実による産業人材の育成・確保を図る必要があります。
- 温暖な気候を生かした園芸産地の拡大や環境と共生する農業を進めるとともに、資源管理型漁業やつくり育てる漁業を進め、農林水産業の振興を図る必要があります。また、農商工連携による地域産業の活性化を図るとともに、阿武隈山間地域などの過疎・中山間地域においては、特色ある地域資源を生かした産業の振興を図る必要があります。
- 安心して健やかな生活が送れるよう、地域医療提供体制の確保など保健・医療・福祉サービスの充実を図る必要があります。
- 高速交通体系や地域内外を有機的に結ぶ幹線交通網、相馬港などの社会基盤の整備を促進するとともに、引き続き原子力防災対策や、自然災害に対する防災体制を確保し、地域の安全を図る必要があります。

人がほほえみ
地域が輝く
ほっとする
ふくしま
うつくしまコラム
⑥

ふくしまの人、伝統と文化、自然を訪ねる美しい旅。

福島県には、それぞれの地域に、歴史に残る人々の活躍や時を超えて今に伝える伝統文化、美しい自然などがたくさんあります。小さな物語をお楽しみ下さい。

えん どう あらた
遠藤 新 1889~1951



遠藤新は明治22(1889)年、相馬郡福田村(現在の新地町)に生まれました。

アメリカの世界的建築家フランク・ロイド・ライトが旧帝国ホテル(ライト館)設計のため来日した時に、ライトの弟子となり、帝国ホテル設計のチーフアシスタントとして活躍しました。

その後、自由学園、甲子園ホテルや目白ヶ丘教会など数々の設計を行いました。特に自由学園の一部は国指定文化財となっています。新地町には遠藤新が作った、くるめがすりの家(旧小塩完次邸)があり、見学することができます。

よ もり 夜の森公園の桜(富岡町)



春になると、富岡町のJR常磐線夜ノ森駅から歩いて3分ほどの「夜の森公園」近くに、約2.5Kmにわたって桜のトンネルが現れます。

道の両側から頭上に広がる満開の桜を見渡すと、それはまるで別世界のような風景です。晴れた日には桜の間から青空が広がり、見上げると淡桃色と青色の美しいコントラストを望めます。

桜が見ごろを迎えると夜にはライトアップされ、昼間とはまた違った幻想的な風情に酔いしれることができます。

(3) 施策の展開方向

多彩な地域資源の連携による広域交流圏の形成と人づくり

特色ある地域資源の有機的な連携により、魅力ある観光やスポーツ交流の促進を通じた交流人口の拡大や人づくりを進めます。

電源立地地域の特性や物流基盤の整備効果を生かした産業の集積

電源立地地域の特性や物流基盤を生かした産業の集積と振興を図るとともに、産業人材の育成・確保を図ります。

地域特性を生かした農林水産業などの振興と地域活性化

温暖な気候を生かした農業の振興や良好な漁場を生かした水産業の振興を図るとともに、豊かな地域資源を生かした地域活性化を図ります。

安全で安心な暮らしや交流を支える基盤の整備・充実

安心して生活が送れるよう、原子力防災対策を含む地域防災体制の整備や生活環境基盤の充実を図るとともに、幹線交通網や港湾などの社会基盤の整備を進めます。

(4) 重点施策

■ 多彩な地域資源の連携による広域交流圏の形成と人づくり

- 相馬野馬追などの伝統文化や、電源立地地域対策交付金により整備された交流施設など電源地域の資源を生かした首都圏を始めとした都市との交流、浜通り地方の連携による広域観光ルートの形成などにより、周遊・滞在型観光を推進します。
- Jヴィレッジなどスポーツ施設の有機的な連携により、施設の集積を生かしたスポーツ交流拠点地域の形成を促進し、交流人口の拡大を図ります。
- 常磐自動車道のサービスエリアの設置促進や交流施設整備への支援などに関係機関が一体となって取り組み、延伸の波及効果を生かした地域振興を図ります。
- 双葉地区教育構想に基づき、(財)日本サッカー協会などの関係機関と連携しながら、国際人として社会をリードする人づくりを進めます。



●Jヴィレッジ

■電源立地地域の特性や物流基盤の整備効果を生かした産業の集積

- 高度な技術を生かした輸送用機械、半導体関連産業や、今後発展が見込まれる太陽光発電など環境・エネルギー産業等について、電源立地地域における優遇制度（電気料金の軽減等）や物流基盤の整備効果を生かした新規立地の拡大、立地企業の振興などにより集積を促進し、地域経済の活性化や雇用の拡大を図ります。また、積極的なポートセールスにより相馬港の物流拠点としての機能を強化し、宮城・山形両県南部を含む広域経済圏の確立を図ります。
- テクノアカデミー浜における地域産業のニーズに対応できる人材育成、技術の維持・発展や、専門高校の活性化、在職者教育の充実などについて産学官連携により推進し、産業集積の前提である産業人材の育成・確保を図ります。

■地域特性を生かした農林水産業などの振興と地域活性化

- 冬季温暖で多日照などの立地条件を生かし、野菜や花きなどの産地化を図るとともに、有機栽培、特別栽培などの環境と共生する農業への転換を進めます。また、水産試験場や水産種苗研究所の調査・研究などを基に、資源管理型漁業やつくり育てる漁業を展開することにより水産資源の持続的利用を進め、水産業の振興を図ります。



●ヒラメ種苗生産施設

- 農林水産業と商工業との密接な連携により、生産と加工、販売、流通手法などを効果的に組み合わせ、地元農林水産物を活用した魅力ある製品づくりや販路の拡大を進めるなど、相乗効果による地域産業の発展を図ります。
- 阿武隈の山並みを始めとする豊かな自然や伝統文化などの地域資源の継承、地域コミュニティの再生・活性化などにより、過疎・中山間地域の振興を図ります。また、松川浦や太平洋に注ぐ河川の水質保全、水産資源の保護を図るため、植林など森林ボランティアが行う自然環境保全活動等の地域づくりを支援します。

■安全で安心なくらしや交流を支える基盤の整備・充実

- 安全で安心できる医療が受けられるよう、医療機関の連携を始めとする地域医療提供体制の充実・強化を図るとともに、生涯を通じた健康づくりや生活衛生対策を推進します。また、子どもから高齢者まで誰もが安心して健やかに暮らせるために、子育て支援や高齢者、障がい者福祉の充実を図ります。
- 原子力防災対策の充実・強化への取り組みや事業者と締結している安全確保協定の厳正な運用を行うとともに、環境放射線常時監視結果の迅速な提供に努めます。また、地域防災や県土保全の観点から、高潮・波浪、浸食などの被害から海岸を保護し、快適で潤いのある海岸環境の保全と創出を図るため、人工リーフや消波堤などの海岸保全施設の整備を進めます。
- 常磐自動車道や東北中央自動車道、阿武隈東道路などの高速交通体系、国道114号、国道288号、県道広野小高線（浜街道）などの幹線道路、阿武隈山間地域における生活道路や、取扱貨物の増大等に対応した相馬港の港湾施設など、社会基盤の整備を進めます。

7

いわき地域

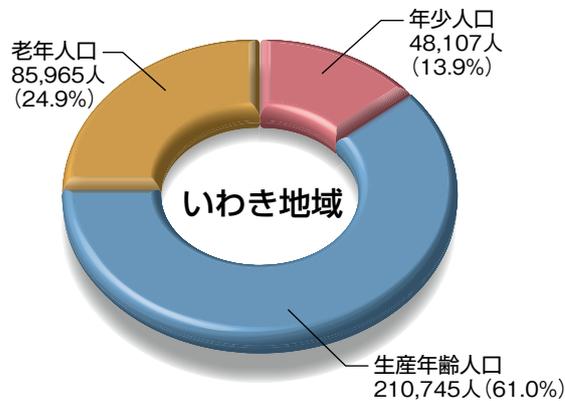
(1) 地域特性

- 面積
1,231.34km²(県全体の8.9%)
- 世帯数
133,196世帯(県全体の18.2%)
- 人口
345,310人(県全体の16.9%)
- 就業人口
160,757人(県全体の15.9%)
- 地域内総生産
約1兆2,868億円(県全体の16.3%)

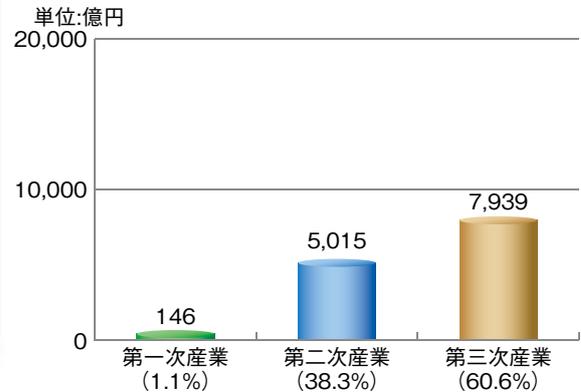


●アクアマリンふくしま

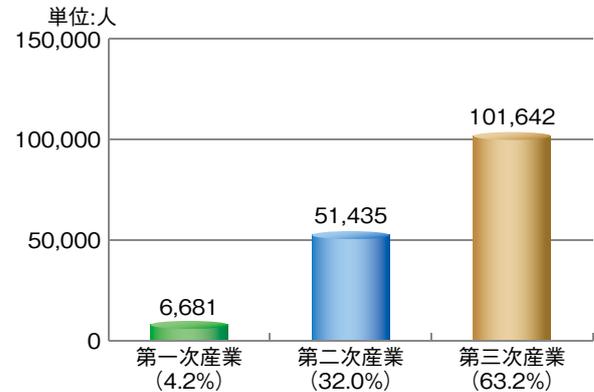
年齢別人口



産業別総生産の構成



産業別就業人口の構成



- いわき地域は、福島県の南東部に位置しており、いわき地域を構成するいわき市は、昭和41年に5市4町5村が合併して誕生した広域多核都市で、平成11年に中核市へと移行しています。
- 西側の阿武隈高地や東側の太平洋、地域を西から東へと貫流する夏井川、鮫川などの河川、さらには国宝「白水阿弥陀堂」など、多彩な自然と歴史・文化を有するとともに、温暖で寒暖の差が小さく、年間日照時間が長いなど、恵まれた気候を有しています。
- 港町、炭鉱の町として栄え、他地域との交流が活発に行われたことから、開放的であり、大らかでさっぱりとした気質があります。また、石炭産業から製造業を中心とする工業都市へと発展を遂げるとともに、市内各地区においてはそれぞれの特性を生かした地域づくり活動が展開されるなど、進取の気性に富んでいます。

- 輸送用機械関連、化学関連などの分野を中心として、高い工業集積を有しています。また、農業では、米のほか、トマトなどの施設園芸作物の生産が盛んであり、水産業では、東北でも屈指の水揚げ量を誇っています。さらに、アクアマリンパークを始めとして、集客力の高い施設が点在しています。
- 常磐自動車道、磐越自動車道、常磐線、磐越東線などの広域交通体系が整備され、また、重要港湾である小名浜港では国内外にコンテナ定期航路便が就航しており、広域で多様な連携・交流ネットワークの要衝として、産業、観光、文化など多面的な魅力のある地域の形成に向けてさらなる発展が期待されています。

(2)課題

- 多彩な自然や温泉、特色ある拠点施設、首都圏に隣接する優位性を生かし、都市農村交流や定住・二地域居住の促進、広域観光の振興など、多様で活発な交流を展開することが求められています。
- 東京圏、仙台都市圏を結ぶ浜通り軸と横断道軸・南部軸の結節点として、また、東日本沿岸部における中核都市圏として、県内外、海外との連携・交流を促進するため、広域交通体系の整備充実に加え、小名浜港の一層の機能高度化を図る必要があります。
- 地理的優位性を生かした企業誘致により雇用を創出するとともに、高い工業集積や高等教育機関などを生かした技術交流や産学官連携により地域産業の研究開発力・技術力の強化を図り、創造的で活力のある産業の展開を促進することが求められています。
- 温暖な気候を生かした特色のある、安全で安心な農産物の生産、豊富な森林資源を生かした木材の安定供給、資源管理型漁業・つくり育てる漁業を進めるなど、農林水産業の振興を図る必要があります。

うつくしまコラム
7
ふくしま
ほっとする
地域が輝く
人がほほえみ

ふくしまの人、伝統と文化、自然を訪ねる美しい旅。

福島県には、それぞれの地域に、歴史に残る人々の活躍や時を超えて今に伝える伝統文化、美しい自然などがたくさんあります。小さな物語をお楽しみ下さい。

よしの吉野せい 1899~1977



撮影：草野日出雄氏

吉野せいとは明治32(1899)年、いわき市小名浜に生まれました。

若い頃から山村暮鳥と交流を持ち、雑誌や新聞に作品を投稿していました。詩人の三野混沌(本名・吉野義也)との結婚後、文章を書くことを一切やめ、現在のいわき市好間町で厳しくつらい開墾生活を送りました。

夫が亡くなった後、草野心平の励ましを受け、70歳を過ぎてから再び筆をとりました。その後3年ほどの間に書いた作品による短編集『涙をたらした神』を発表し、昭和50(1975)年に大宅壮一ノンフィクション賞と田村俊子賞を受賞しました。

いわき市には、吉野せいの業績を後世に伝えるとともに、若い人材を育てることを目的にした「吉野せい賞」があり、小説や評論などの作品を募集しています。

いわきフラオンパク(いわき市)



オンパクとは温泉を中心としたイベントの名称で「温泉泊覧会」を省略したものです。映画『フラガール』の舞台となったいわき市では、1月から3月にかけて「いわきフラオンパク」として市内で官民一体となって着地型観光事業を展開しています。

市内の観光施設、商店、温泉、旅館、工場等の施設を活用したさまざまな体験教室や街中散策などをメニュー化して、いわきの魅力を知ってもらおうというものです。

平成20(2008)年にスタートした「いわきフラオンパク」は、その範囲を徐々に広げ、市内一円でおいしい食との出会いや手作り体験など、いわきでしか体験できない多彩なプログラムが用意されています。

- 豊かな自然環境の保全を図りながら、広域多核都市いわきのそれぞれの地区が有する地域資源を生かした個性ある地域づくりを進めるとともに、生活・交流の基盤となる道路の整備などを進め、各地区の機能の強化と連携を図り、多彩で魅力にあふれる生活圏づくりを進めていくことが求められています。
- 人と人がつながる環境づくりを進め、地域コミュニティの再生・活性化を図るとともに、地域医療、福祉サービスの維持・充実や災害に強い社会基盤の整備を図り、安全で安心に暮らせる地域社会を形成していくことが求められています。

(3) 施策の展開方向

多様な地域資源を生かした交流の促進

多彩な自然や温泉、特色ある拠点施設などを生かし、観光を始めとした広域的な交流の拡大を図るとともに、県内外、海外とを結ぶ広域交通体系の整備充実、小名浜港の一層の機能高度化など、連携、交流を支える基盤整備を進めます。

創造的で活力のある産業の展開

技術交流や産学官連携の取組みを進め、地域産業の研究開発力・技術力の強化を図るとともに、温暖な気候や豊富な森林資源、潮目の海の漁場特性を生かし、農林水産業の振興を図ります。

豊かな自然環境と調和した多彩で魅力ある生活圏の形成

森・川・海の豊かな自然環境の保全を図りながら、広域多核型の地域構造を生かし、それぞれの地区が有する地域資源を生かした個性ある地域づくりを進めるとともに、地域内の連携・交流や日常生活を支える道路の整備などを進めます。

人と人がつながる安全で安心な環境づくり

地域コミュニティの再生・活性化に向けた取組みを支援します。また、医師の確保、福祉サービスの質の確保に努めるとともに、河川改修、海岸保全施設整備等の防災対策を進めます。

(4) 重点施策

多様な地域資源を生かした交流の促進

- 森・川・海の豊かな自然や温泉、アクアマリンパークなどの特色ある拠点施設、首都圏に隣接する優位性を生かし、F I T 圏域を始めとする県内外の各地域との連携も図りながら、都市農村交流や定住・二地域居住を促進するとともに、広域観光の振興を図ります。
- 積極的なポートセールスを展開するとともに、港湾サービス機能の充実及び港湾施設の整備を進め、小名浜港の利用を促進します。
- 県内外との交流基盤となる常磐自動車道や国道6号、国道49号、国道289号などの広域交通体系の一層の整備を進めます。



●小名浜地区の工業地帯

■創造的で活力のある産業の展開

- 高い工業集積を生かし、いわき明星大学や福島工業高等専門学校などの高等教育機関との連携も図りながら、技術交流や産学官連携の取組みを進め、地域産業の研究開発力・技術力の強化と高付加価値化を図ります。また、工業団地への企業誘致を進め、一層の工業集積と雇用・就業機会の創出を図ります。
- 温暖な気候を生かした特色のある、安全で安心な農産物の生産拡大と担い手の育成確保、集落営農体制の組織化の取組みを進め、農産物の安定生産体制の確立を図るとともに、豊富な森林資源を生かして木材の安定供給体制の確立を図ります。また、農林産物の消費拡大に向けた取組みを進めます。
- 水産試験場や水産種苗研究所の調査・研究などを基に、資源管理型漁業やつくり育てる漁業を進め、水産資源の持続的利用を図ります。また、魚食普及活動の促進など、水産物の消費拡大に向けた取組みを進めるとともに、漁業後継者に対する支援や就労環境の改善を促進し、漁業経営の安定を図ります。

■豊かな自然環境と調和した多彩で魅力ある生活圏の形成

- 多彩な自然や地域に息づく文化などの地域資源を生かした個性ある地域づくりの取組みを支援します。
- 魅力的な中心市街地の形成を図るため、いわき駅周辺の施設整備や街路などの整備を進めるとともに、中心市街地活性化のための取組みを支援します。また、港と一体となったまちづくりのため、小名浜港背後地などの整備を進めます。
- 広域多核型の地域構造を成している各地区相互の連携・交流や日常生活を支える道路の整備を進めるとともに、生活交通確保のための取組みを支援します。



●いわき駅前再開発ビル「ラトブ」

- 森林ボランティアなどによる森林(もり)づくりや夏井川、鮫川における流域連携など、自然環境保全に向けた取組みを支援します。
- 循環型社会の形成に向け、豊富な森林資源や長い日照時間を有する地域特性を生かして、バイオマスや太陽光などの再生可能なエネルギーの利活用に努めます。

■人と人がつながる安全で安心な環境づくり

- 地域コミュニティの再生・活性化を図るため、子育て支援などの地域で支え合う取組みや住民が主体となった地域活力を向上させる取組みを支援します。
- 安全で安心な医療の充実のため、不足する病院勤務医を始めとして医師の確保に努めるとともに、高齢者や障がい者に対する福祉サービスの質の確保に努めます。
- 地域防災や県土保全の観点から、夏井川、鮫川などにおける河川改修や中山間地域などの地すべり対策、老朽化している海岸保全施設などの整備を進めます。

福島県ゆかりの偉大な先人たち

全国的、世界的に顕著な功績を残した
VOL. ② 福島県にゆかりのある偉大な先人たちを
ご紹介します。



よし だ とみ ぞう 吉田富三

1903～1973

吉田富三は明治36(1903)年、石川郡浅川町に生まれました。

大正12(1923)年、東京帝国大学医学部に進み、卒業後、病理学を専攻しました。

昭和7(1932)年、ラットに化学物質を投与し、世界で最初の人工肝臓がんの生成に成功しました。昭和18(1943)年にはラットの腹水に浮遊するがん細胞(吉田肉腫)を発見し、がんが「がん細胞」から発生することを証明しました。この発見が、細胞レベルにおけるがん研究の幕開けとなり、がん研究を世界で飛躍的に発展させることになりました。

また、吉田肉腫は、がんの効果のある薬物の客観的測定を可能とし、がんの化学療法は目覚ましく進歩を遂げました。

生涯にわたり、がん研究の先導者としての役割を果たし、文化勲章、勲一等旭日大綬章などを受賞しました。



う りゅう いわ こ 瓜生岩子

1829～1897

瓜生岩子は文政12(1829)年、小田付村(現在の喜多方市)に生まれました。

14歳の時、藩医の叔父山内春瓏の手伝いをしながら礼儀作法、学問、医療などを学びました。この時に見た貧しい人々や

孤児らが、後の慈善活動家としての活動の原点となったと言われています。

33歳の時に夫と死別し、翌年には、実母も他界する不幸に見舞われましたが、示現寺の隆覚禅師の言葉に励まされ、それ以降、我が身を投げ打ち貧しい人々や孤児たちを懸命に救い続けました。

戊辰戦争の際には敵味方の区別なく負傷者を看護し、戊辰戦争後も孤児救済施設や無料医療施設の設立に奔走するなど、福島県のみならず全国的に慈善活動の発展のために一生を捧げました。女性として初めて藍綬褒章を受章しました。



こ せき ゆう じ 古関裕而

1909～1989

古関裕而は明治42(1909)年、福島市に生まれました。小学校のとき、音楽に興味を持ち、独学で作曲を始めました。

昭和4(1929)年、管弦楽のための舞踊組曲「竹取物語」がイギリス チェスター社の作曲コンクールに入選し、昭和5(1930)年、21歳のとき、コロムビア

専属作曲家として上京しました。

NHKラジオドラマの主題歌「とんがり帽子」「君の名は」や、鎮魂の祈りを込めた「長崎の鐘」など、多くの人々に生きる希望と励ましを与え、愛唱される作品を数多く作曲しました。

また、全国高等学校野球選手権大会歌「栄冠は君に輝く」、「大阪(阪神)タイガースの歌(六甲おろし)」、東京オリンピック選手入場行進曲「オリンピック・マーチ」など、清潔感と躍動感にあふれるスポーツ音楽も手掛けました。



くさ の しん ぺい 草野心平

1903～1988

草野心平は明治36(1903)年、いわき市に生まれました。16歳までいわき市で暮らし、大正8(1919)年に上京しました。

大正10(1921)年、中国の嶺南大学(現在の中山大学)に留学し、この頃から夭折した兄が書き残した詩に触発され、詩作を始めました。

宮澤賢治、高村光太郎、萩原朔太郎などの詩人との親交を深めました。特に宮澤賢治の没後、その作品の紹介に力を尽くした功績は高く評価されています。

ひらがな、カタカナ、漢字、句読点を自由自在に操り、人々の生活感情を「蛙」「石」などのユニークな素材や、「富士山」「シルクロード」「天」といった雄大なスケールから読み上げる独自の詩の世界を築きました。また、生涯にわたり蛙をモチーフとした詩を書き続けたことから「蛙の詩人」とも称されました。